梨マラソン大会、来年は…

片山裕治　議員

来年は第10回記念大会!!

議員　氷川町では町特産の吉野梨の収穫を祝い、また広くアピールすることと町外の人々と交流が活発になることを目指し開催されています。来年度は10回大会となりますが、記念大会として開催し前夜祭とか当日のマラソンだけでなく、ステージイベントなどを含めた検討もしていただきたいと思いますがどうでしょうか。

商工観光課長　来年是非、記念大会として、大きく開催をさせていただきたいと思っております。当然予算も絡みますので、実行委員会、事務局会議の中で、この大会が終わりまして、来年の大会に向けて話し合いをすることになります。その中で予算と内容についても検討をさせていただきたいと思っております。いろんな提案がございますので、そこを含んで来年度大会に向けての話を進めてまいりたいと思います。

議員　地元の小・中学生がたくさん参加するには参加料を安くしたらどうだろうかという意見をいただきました。私も町内の小・中学生が多く参加したら大会も盛り上がるかなというふうに感じました。沿道の応援も多くなるし、大変にぎわうかなというような期待もできます。来年度10回大会に当たっては小・中学生の参加賞などの内容を少し見直し、検討していただきたい。

商工観光課長　経費につきましても年々変化しております。子どもたちの参加につきましてもやはり地元の子どもたちにも参加していただきたいと思っておりますので、全体的な経費を見直す中であわせて検討をさせていただきたいと思います。

どうなる武道館!?

議員　氷川署にある氷川館の存続については、県警の説明では武道館はなくなりますという話でしたので、何とかそれを町長は武道館を残し、そこに例えば町がつくってでもそこに武道館をつくれないかと提案されましたが、それについては今、県警と協議なされているかお聞かせください。

町長　これからも県警の方にしっかりと、あるいは県の方にしっかりと申していきたいと思います。是非実現できるように頑張ってまいりたいと思っております。

議員　免許証更新等の許認可は今度の仮称機動センターでも受けられるということなんですけども、ほかに先ほど申しました道路使用許可なんかも是非ですね、八代署までいかなくても、今度移った場所でもですね、取り扱いができるようにあわせて調整していただきたいと思います。

町長　県警の方から私どもの方に、今後の計画についてのお示しがあるものと、私どもは思っております。そのときに具体的なそういったお願い、その他につきましてもできるものというふうに私は承知しておりますが、今が遅いという言い方をされましたけども、全く遅いと思っておりませんし、これからそれが始まっていくものというふうに思っております。平成29年が供用予定でございましたが、あと3年という話でございますが、具体的な考え方をお示しいただきましたうえで、そういった個々のお願いもその都度実施をしていきたいと思いますし、必要であればこちらのほうからどうなっているのか、早急に確認をいたしまして、申すべきことがあれば申し上げていきたいというふうに思います。

議員　積極的に町民のために利便性のいいような形で進めていただきたいと思います。

農業の振興策の取り組みは!?

河口涼一　議員

農業の振興策は…

議員　氷川町農業振興計画に詳しく記載されていますが、農家の戸数、生産高、所得の推移、また、できれば平均年齢について教えてください。

農業振興課長　平成22年において、農家数845戸、1，700人です。10年前の平成12年までは、1，037戸、2，376人。さらに30年前の昭和55年と比較すると1，524戸、3，927人で、この30年で半減しています。平均年齢につきましては、資料を持ち合わせていません。

　農業生産額については、平成25年度で、合計額約62億円です。ここ7、8年は、およそ60億円ほどで推移しています。ピークは、平成7年の100億円弱です。

　所得については、専従者の数や設備費などの経費の控除状況により変動するので適当な回答ができません。

議員　農業振興計画の資料などには、家族経営で600万円、従事者一人当たり300万円とあります。それに、農業団体や税務当局の資料にも各品目について生産額、原価率、利益・所得がでています。ここで、この作物は手間がかかるが利益率が低いとか、また、その逆だとか、つかみながら、高齢者や女性の活躍につなげていけるような方向性が望ましいと思います。

　主要作物上位5品目ほどとその生産高を説明してください。

農業振興課長　粗生産額で申し上げますと1番が「イチゴ」で約20億円。180戸で53ヘクタールの作付。2番目が「い草」で約7億円75戸で約90ヘクタール。3番目は「梨」で、約7億円。95戸で90ヘクタール。4番目は、「もち米」と「トマト」でそれぞれ5億6千万円ほどです。もち米は、400戸、500ヘクタール。トマトは、30戸、15ヘクタールほどです。

議員　将来の氷川町の展望と課題は何ですか。

農業振興課長　基盤整備も進み、高品質・高生産の体制も整ってまいり、様々な作物が生産されています。就業者を確保し、集落営農の組織化を進めながら、安定供給・品質向上を図り、所得向上を目指したい。

　課題は、後継者不足と担い手の高齢化です。

議員　全国的に農業者が高齢化し、直近では、平均年齢66歳と言われています。一般的には、リタイアの年齢です。では、衰退産業かというと、アベノミクスでは、農業は第3の矢として成長産業として捉えて、大胆な農業改革を示してます。そこで農地拡大についてですが、人・農地プランの中で、農地中間管理機構というのがありましたが説明をお願いします。

農業振興課長　今年度から始まり、農地を貸したい人と借りたい人をつなぐものです。集積・集約化を推進します。

議員　利用したい等の問い合わせはありますか。

農業振興課長　3件ほどあり、水稲など規模拡大希望です。

議員　農家・農民は、定住性の強い農耕民族・定住民族であり、基本的に住み続けようと思っている方々がほとんどです。この人々が「和」の文化といいますか、「共助の精神」ともに助け合うという精神をお持ちで、これが郷土愛・郷土意識、そして地域環境の保全なり伝統文化の継承ということで地域づくりにも貢献されていると私は思っております。そればかりか、経済活動、経済行為においても地元志向・地元意識が強くて、地元の経済に大きな貢献、寄与をされておられると思っております。我が町の基幹産業であるということを十分示しておるものだろうと私も認識をしております。

　中山間地・里山地域を含め高齢の方が現金収入を得るために色んな作物を生産されています。女性の方の活用という観点からも、集荷・販売などで取り組みやすいシステムの確立をしてほしいと思います。

　このことが、耕作放棄地対策や災害対策、水の涵養などに繋がっていくはずです。

農業振興課長　町内にも数カ所販売所があり、今後のあり方を検討する必要があります。

町長　まさに農業はなくなる産業じゃございません。成長産業だろうと思っております。現存の農家の方、あるいは新規に農業に参入したいという方々と、この産業を活性化させることで、人口の確保、あるいは増加につなげていきたいと思っております。

議員　現在の農家の方の意向調査をしていただき、後継者の有無もですが、そして生きがいと健康促進と、さらには年金とあわせて現金収入があれば高齢の方も豊かに町で暮らしていけますので、是非、そこをお願いをしたいと思います。